

ホーム名：グループホームグローブハウス2F					
自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理日誌の裏表紙とスタッフ名札の裏、玄関口に掲示など意識できるようにしている。	理念を玄関に掲示し、管理日誌の裏表紙や名札の裏にも表示し、その気持ちを共有し日々の支援に生かしている。	入居者の立場に立って考え、家族のような気持ちで接し、家庭ではなかなか出来ないような支援に取り組んでいる。今後も「心から心へ」の気持ちを大切に温かい支援を続けていかれることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館でのサロン、馴染みの喫茶店、美容室、新聞社への社会見学など積極的に地域と接し認知症の理解をいただいている。	自治会に加入していて、「いきいきサロン」や秋祭り等、参加できる行事は一緒に楽しんでいる。近所の小学校の3年生との触れ合いが盛んで、近隣住民とも散歩の折などに声かけ、挨拶などが自然に出来る関係が出来ている。	事業所の前の高架下での祭太鼓の練習を観たり聴いたり、下校時に子ども達が遊びに来てくれたり、心の和む時間を楽しんでもらっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校と年間通しての交流をし接しているなかで認知症の理解をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3月曜に開催し民生委員、地域包括、家族さん、他施設の管理者の方々に参加いただき意見や助言をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度、地元の民生委員、家族、入居者、地域包括、他のグループホームの管理者の出席を得て開催している。事業所からの報告、出席者からの意見、要望がだされ、会議録は見やすく作成されていて次回開催予定日も記載されている。	ほぼ固定されてはいるものの入居者の参加や発言も議事録にあり、他のグループホームからの出席もあり、包括、民生委員も含めて話題が充実している。これからも継続して事業所を地域で支えてもらいたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	社協の方との会議の参加や介護保険関連課の方と連絡をとりながらアドバイスをいただいている。	市職員との関係はよく、事業所からの相談もしやすく、制度改正時等の連絡を受けたり、認知症に関する知識を広めていく為の行事開催、集団指導に関する要請もありその時々で協力をしている。	今後も地域で認知症高齢者を支える事が出来る社会づくりに市町村と連携してもらいたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	開設以来、玄関やフロアの扉、エレベーターなど一切の施錠はせずそれを含めて身体拘束の意味を職員それぞれが理解している。	玄関、エレベーターの施錠はされていない。それぞれのケースで家族の希望も取り入れ検討を重ねた上で対処方法を模索している。	限られた職員の人数の中で入居者に寄り添う心と、仕事の優先順位を常に意識していて、事業所内では自由に行き来している入居者を何人も拝見した。階下へ降りてご主人に電話をかけたり調理の手伝いをしたり、1階のマッサージ機を使用することもある。「自分のおうち」のように過ごせるよう職員は見守り、支援している。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	統一した理解をもてるためにフロア会議時に話しあい、各フロアに閲覧できるように虐待資料をおいている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>司法書士の先生に制度のことを学びながら対象の方がおられたら関係各機関と連携をできる体制をとっている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>書面、口頭で十分な説明をおこない、理解 納得の上 契約に至っている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、1年に1回家族会を開催し毎月の請求書の中にお便りを同封しご要望を記載頂いている。支払に来られた際にも気になることなどをきいている。</p>	<p>毎月の入居費用の支払いには家族に来ていただくのでその折に要望や、気になる事は話し合えるようにしている。玄関に意見箱が設置されている。家族会は毎年開かれる室内運動会の後に集ってもらえる場を作っている。</p>	<p>認知症状を抱える入居者と家族が少しでも繋がる事が出来るように手紙やカードを利用したり職員が工夫を凝らして支援している。衣替え等些細なことも写真を撮って家族に知らせ安心してもらっている。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回、各フロアごとの会議で場を設け、年2回個別にヒヤリングを行い意見を反映できるようにしている。</p>	<p>各ユニットにユニットリーダーがいて、職員の意見や思いを聞く態勢が出来ている。マニュアルに添うのではなく日常の職務の中で意見を出し合い改善していくようにしている。</p>	<p>多くの伝達事項や記録の漏れのないように「全体ノート」の中に閲覧チェック表が作成されていて誰がどの書類を見たかを一目瞭然でわかる体制が出来ている。シフト上の相談もしやすい環境作りができています。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回役員会議で勤務実態や職員個々の報告などを行い、評価すべき点は報酬などで加味し向上心を持てるように工夫している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員に対し定期的な内外研修や勉強会などの機会を増やしスキルアップできるように進めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会主催の勉強会などに職員も参加し相互交流できるよう取り組んでいる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期情報と照らし合わせながらご本人との会話で困っていること、不安なことなど聞きだし実行できるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学時や契約時に家族の方から情報収集し要望をきけるようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>何が優先順位かを見極めこちらができる範囲の対応をおこなっている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の残存能力を活かしできることは職員と一緒にこない役割をもった日常生活の中でその方らしい過ごし方の支援をおこなっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時などお話しをきき請求書送付時にご意見欄を設けた書面を同封しささいなことでも記載いただくようお願いしている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>美容院や喫茶店、お墓参りなど馴染みや思い出の場所をきき定期的に行けるように支援している。</p>	<p>入居者が望む場所に、日帰りで行ける場所なら何とかして同行し、連れて行ってあげたいという気持ちが強い。訪問美容は月に一度来ているが希望者には希望の美容院にも同行している。</p>	<p>行き先は近畿に留まらず九州その他の遠隔地でも実費のみで「日帰りで行けますから」と管理者は当然の事と捉えている。また、家族のことが気がかりな時には一緒に電話をかけてくれる。あくまでも入居者主体の支援は素晴らしい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者間に職員が入り孤立しないような環境づくりを意識している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても相談などあればおききしできる範囲での協力はさせていただいている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から考えや思いをくみとりその方に合った支援に取り組んでいる。	管理日誌や全体ノート、フロア会議を活用して、入居者の心情や希望の変化を職員の間で共有しながら随時対応している。	思いや意向を把握して、職員で共有することは勿論力を注いでいるが、それに「寄り添う心」が伴っているので入居者の自然な笑顔をたくさん拝見できた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族やケアマネからの情報、ご本人のお話の中で環境を変えずに過ごせるケアを意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、10時に日勤帯スタッフで入居者の意向をくみ取りながら本日の予定のミーティングをおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さん、ひとりひとりにスタッフが担当しケアマネを交えモニタリングを月1回行い介護計画を作成している。	閲覧資料「モニタリング担当者会議録」にそれぞれが必ず目を通すことを欠かさずケアマネジャーを中心に支援に繋げている。ケアプランは毎月見直し評価しておりそこには医療連携ノートを通して医師の指示を反映させている。	ケアプランの中の目標は「外出を楽しみにいきいきと過ごす」「やり甲斐を感じて役割をこなす」「声を出して笑う」など、身近で楽しく頑張ろうと思えるようなものが多い。ひとりひとりをしっかり観察することで柔軟な対応に繋がっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個別経過記録に記載し、他 気づきや提案などは申し送り帳などでスタッフの共有をはかり実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力などの低下されている方など医療保険からの訪問施術をうけるなど柔軟な対応おこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、お茶会、太極拳などの慰問ボランティア行事をおこない豊かな暮らしの支援をおこなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診があり、看護師が同席し家族の意向や現状経過など往診医に伝え適切な指示を受けている。	提携医である柳田内科からは月2回の往診、歯科は週1回の往診があり健康チェックを行っている。看護師が同席して風邪症状等の個別説明を伝え、受診結果は医療連携ノートに記録して日々のケアに活かしている。	連携医以外の外来受診は、家族や看護師が付き添って受診している。今後も適切な医療を受けられるような支援を願う。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>非常勤職員として週4回看護師が勤務している。医療ノートで介護と看護の申し送りをおこない不明な点は口頭での確認を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>近隣の医療関係者の方とも日常から連携し情報収集に努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族の意向をきき往診医の意見をききながら看護師とケアマネでプランを検討しフローで方針を共有できるようにしている。</p>	<p>入居の際に点滴や、胃瘻等医療処置が継続する場合は退去、又苦しむ場合は救急搬送をする事等事業所で取り得る対応を説明した上で、本人・家族の意向を踏まえた「看取りに関する指針」を作成している。終末期には看取りのケアプランを作成して終末期体制を取り、既に2件ほど看取りの支援を行っている。</p>	<p>延命治療の有無への柔軟な対応や、苦痛の軽減等、ホームで対応出来る技術の向上にも益々取り組まれる事を望んでいる。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職者は、順に心肺蘇生法などの救命講習（AED）を受講している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>半年ごとに消防避難訓練をおこない夜間想定を多くし実践に近い形で職員に周知してもらっている。それを運営推進会議で報告し地域の方に連携の確認をおこなっている。</p>	<p>7月5日には、夜間に3階からの出火を想定した避難訓練を実施し、12月9日には消防署と連携して、夜間の2階出火を想定した消防避難訓練を行った。2・3階の廊下と台所に消火器を、煙感知器・スプリンクラー・火災報知器も設置している。</p>	<p>消防避難訓練への地域住民の参加については、地域の連合会長と話し合い、今後参加を呼び掛けていく予定である。入居者の命を護るため、地域との協力体制を構築して欲しい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の方、個々に合わせた言葉かけや対応に注意し接している。</p>	<p>人生の先輩として常に敬った言葉遣いを心がけている。特に部屋のドアの開閉の際や、トイレ誘導、職員間の連絡時の呼称の配慮等、プライバシーを損ねない対応をしている。</p>	<p>ユニットリーダーは、入居者の行動を否定しないで傾聴し、1日に何回も笑顔を引き出せるようなケアを心がけている。これからも本人本位の支援をお願いしたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>判断できる部分はそれを活かすことができるように自己決定を促している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先より入居者優先介護を徹底し会議などでも定期的に確認している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>服装などご本人の好みで着られるように買い物なども選択いただき納得いただけるようにしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ユニットごとに入居者と職員と一緒に食事準備、洗い物、テーブル拭き、など可能な方にはしていただいている。</p>	<p>昼食のメイン料理は1階厨房で調理し、夕食はユニット毎に、入居者の希望を取り入れてメニューを決めている。各々の能力に応じて米とぎや、野菜のカット等一緒に準備し、共に和やかに食卓を囲んでいる。</p>	<p>昼・夕食前の嚥下体操は、担当の入居者を決めて、職員と共に皆の前で模範演技を披露している。自分の役割を持つことは、生き甲斐になり意欲向上にも繋がる。日常生活の中で、入居者夫々が活躍できる場面を得られるような支援が出来ている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分量はチェック表にて確認しあい、それに合った対応をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自立の方には声掛け、その他の方は、介助にて口腔ケアし週1回歯科往診にて口腔内状態をみていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で排泄パターンを把握し失禁回数の減少とトイレでの排泄ができるように支援している。</p>	<p>排泄のチェック表の活用や、2時間毎の定期的なトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘には水分摂取や、ヨーグルト、マッサージ、緩下剤、浣腸等で対応している。</p>	<p>不潔行為があり、寒がり皮膚が弱い人が1名、コンビパジャマを着用している。本人の好みの柄や素材を選び、家族の同意もあるが抑圧感の無い暮らしの支援が望ましい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>運動と食生活で個々の反応を把握し水分の工夫など統一したケアをし薬に頼らないようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者さんの希望をきき準備からスタッフと一緒にこなしている。デイの機械浴も必要があれば活用している。</p>	<p>個々の希望により週2・3回の入浴日を決め、希望する時間に入浴している。重介護の人は1階のデイで機械浴を利用出来る。入浴が嫌いな人には、往診時に医師から促して貰ったり、入浴後の散歩を楽しみに誘うなど工夫をしている。</p>	<p>菖蒲湯や、柚子湯、入浴剤等入浴が楽しみになるサービスも提供している。これから暑さに向かうのでより一層こまめな入浴支援を望む。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方には無理に促さずお茶など飲用いただきながらお話を傾聴するようにしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者、個々の薬処方せんを医療ノートにファイルし疑問点があれば看護師に確認している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴資料を元にご本人に確認しながらいかに生活環境を変えずに日々を送れるかの支援を意識している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の散歩以外に毎月、個別外出という形でご本人に行きたいところ、食べたいものなどきき実行している。	ホーム周辺の民家の花壇や、小学校、神社、コンビニでの買い物に出掛けている。以前の自宅付近や、墓参、荒山公園の梅林、大浜公園の桜、住之江競艇、泉州マラソンの応援、3年生との音楽交流会、公民館でマジックショー、朝日新聞社見学等、活発に外出できている。	個別外出では、熊本や四国まで外出支援を行い、入居者は家族との記念写真を居室に飾って、管理者に感謝の言葉を述べていた。職員の勤務時間を調整しての努力と、温かい個別支援に感動を覚えると共に、今後も継続されることを願う。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理可能な方には所持いただき買い物時は直接お金のやりとりをお店の方とされている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	担当のスタッフがパイプ役になりスムーズにやりとりができるように支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロア内はカレンダーや季節の展示物、写真を掲示し毎月変えて 目にとまるようにしている。	共用空間は、ページュを基本とした落ち着いた色調の壁面やテーブルで統一され、広々としている。手作りの大きなカレンダーや、鯉のぼり等季節の展示、紫陽花の活花、写真、書道の作品が掲示されている。すぐ隣を南海本線の電車が走行するが、高い防音壁が設置されており、窓を開放していても騒音は気にならない程度である。	清掃は夜勤の職員が担当しており、日中も出来る時に入居者と共に行き、清潔感を保っている。今後共快適な環境維持に努めて欲しい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロア内はソファやテーブルを置き自由に座れるようにしている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際自宅で使用していた家具や私物を持ち込んでもらい環境を変えない生活を心がけている。	居室入口には、暖簾や、干支の動物の絵が掛けてある。エアコンと洗面所は備え付けてあり、布団や筆筒、テレビやベッドは好みの物を各自持ち込んでいる。壁面には時計やカレンダー、家族の写真等を飾っている。	居室の清掃やシーツ交換、布団干しは、チェック表を作り入居者と共に行っている。ユニットリーダーは、居室のカレンダーに本人の参加する行事予定を記入して、生活意欲の向上を図りたいと考えており、その取り組みに期待している。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は往来できトイレや居室の表示をし、センサーなどで見守りできるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ _____ _____ _____	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ _____ _____ _____	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ _____ _____ _____	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ _____ _____ _____	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない